

令和2年度 社会科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

- [1学年] ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが、少しずつ苦手意識をもち始めている生徒もいる。授業アンケートでは全ての項目において肯定的な回答が9割前後であったが。最も良い評価(4)に絞ると、「知識・技能の高まり」「振り返り」の項目は7割未満であった。
- [2学年] 前向きに学習に取り組む生徒も多いが、半数ほどの生徒は教師や他の生徒の発言を聞いてノートを取るだけなど、積極性に欠ける面がある。授業アンケートでは全ての項目において肯定的な回答が8割を超えたが、最も良い評価(4)に絞ると「関心・意欲の向上」「知識・技能の高まり」「考えの深まり」「振り返り」の項目は5割程度にとどまった。
- [3学年] グループ活動で積極的な話し合いが行われるなど、授業に前向きに取り組む生徒が多い。授業後の振り返りシートも8割以上の生徒がよく考えられた内容を記述している。授業アンケートでは全ての項目において肯定的な回答が8割を超えたが、最も良い評価(4)は「知識・技能の高まり」「考えの深まり」「振り返り」の項目で5割程度にとどまった。

②課題

- [1学年] 上位層は「地図・資料活用の技能」が身に付いており、得点に結びついているが、中位層と下位層は資料や地図から適切な情報を選択できていない。正確に資料を読み取り、また複数の資料から必要な情報を取り出す力を養うことが課題である。
- [2学年] 基礎的な「知識・理解」の力を生かして、地図・資料の読み取りや分析、必要な情報を取り出す力を高め、思考力・判断力等の育成を図ることが課題である。
- [3学年] 「関心・意欲」「思考・判断」の最も良い評価が5割程度であったことの原因は、講義中心の授業が多いことが原因と考えられる。また、授業で学習した内容が「知識・理解」として確実に力となっていることを確認する場が、定期考査と2か月に1回程度の単元テストのみであるため、定着度を確認する機会をもう少し増やす必要がある。

③具体的な改善策(「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善)

「関心・意欲」および「思考・判断」の力をつけるため、毎回の授業で講義と活動的な学習をバランスよく配置するようにする。その際、生徒が深く考えることのできる興味深い学習課題を提示することを意識する。そのための手段として、市販の指導書を参考にしたり、社会科教員間の情報交換を増やしたりする。

また、知識の定着のために、1、2年生においても授業の最後の3分程度で「振り返り」を行う時間を設けるようにする。さらに、知識の定着を実感できる機会を増やすため、小テストを短期間で多く実施できるようにする。